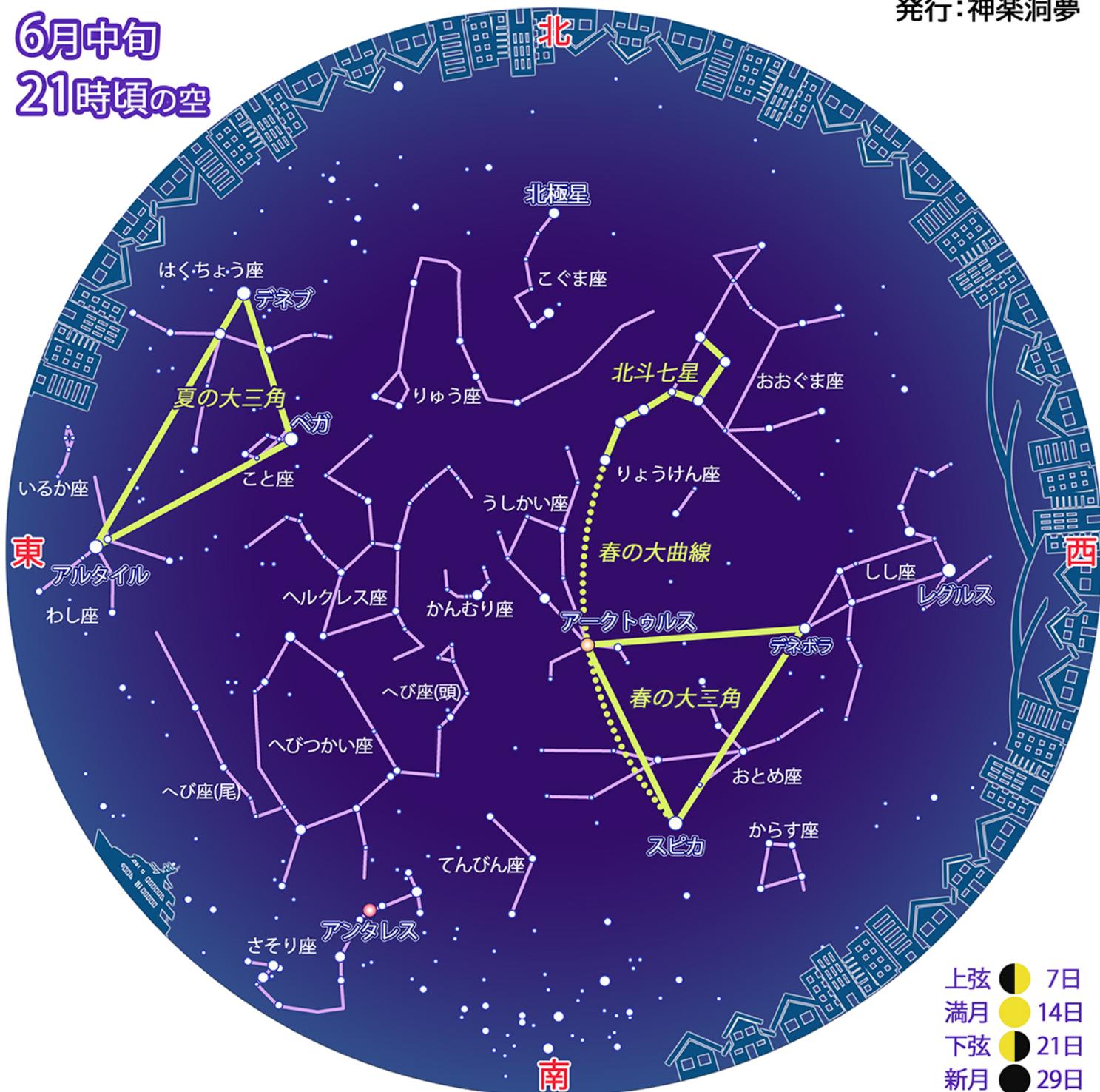


6月中旬
21時頃の空



麦畑が黄金色に色づき、いよいよ収穫を迎える頃、夜空では二つの「麦星」が見ごろを迎えます。うしかい座の1等星アークトゥルスと、おとめ座の1等星スピカです。オレンジ色と青白色の対照的な色で輝く二つの星には、「夫婦星」という呼び名もあります。梅雨の晴れ間、北斗七星の柄を伝ってこぼれ落ちる滴のように、「春の大曲線」をのぼして見つけましょう。

めおとほし 「夫婦星」のヒミツ

夫婦のように輝く二つの「麦星」はそれぞれどんな星なのでしょう？

麦の収穫の時期、日没後に南の空高く輝く姿から「麦星」と呼ばれるアークトゥルスは、全天でも4番目に明るい1等星です。

地球から37光年離れたところにあり、直径は太陽のおよそ26倍、明るさは太陽の113倍あります。太陽よりも老齢の星で、表面の温度が太陽の約6000度に比べ、アークトゥルスは約4200度と、低めのため、オレンジ色に輝いて見えます。

一方スピカは、農業の女神デーメテルの姿とも言われるおとめ座の1等星で、女神が手に持つ「麦の穂先」で輝く星です。

地球から250光年彼方にあるスピカは一つの星に見えますが、その実態は、太陽よりも大きな星が互いにぐるぐる回り合う連星です。

二つの星の距離は、太陽系で例えると、太陽と水星の距離よりもさらに近く、それぞれ太陽の何十倍もの猛スピードで自転をしています。

目まぐるしく回り合うこれらの星々はどちらも表面の温度が2万度を超え、青白く輝いて見えます。

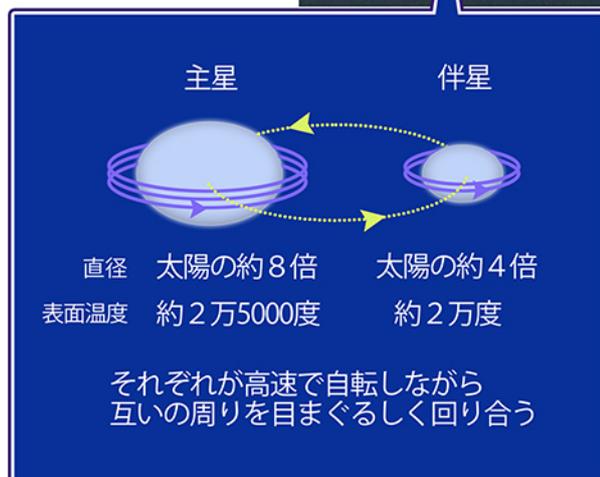
スピカには他にも三つの伴星があると考えられており、控えめな印象とは裏腹に、意外と激しく輝く星のようです。

アークトゥルス



Mikulski Archive for Space Telescopes (MAST), STScI, and NASA

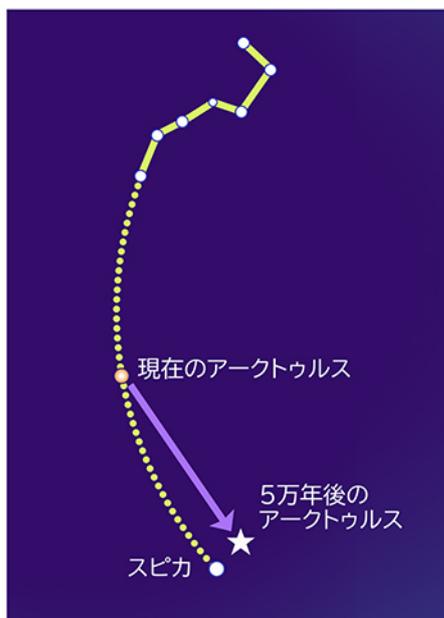
スピカ



スピカに接近？

星々の位置は常に変わらず、いつでも星座の形は変わらないように見えます。けれども、精密に観測をすると、長い時間をかけてほんの少しずつ、恒星はそれぞれの速さでバラバラな方向へ動いています。これを「固有運動」と言い、1718年、ハレー彗星の発見者でもあるエドモンド・ハレーが、アークトゥルスなどの観測をきっかけに発見しました。アークトゥルスは秒速140kmでおとめ座の方向へ移動しており、5万年もすればスピカのすぐそばで輝くようになります。

5万年後、仲睦まじい夫婦星の姿を、人類は地球から見上げることができるのでしょうか。



Okasan Digital Dome Theater
神楽洞夢
KAGURA DOME

〒514-0032 三重県津市中央5-20 岡三証券グループ津ビル4階
http://kagura-dome.jp Tel. 059-221-3121 FAX.059-226-1565